

網走ほんりゅう組

第394号
網走教職員組合
〒090-0836
北海道北見市東三輪83-35
TEL0157(31)7551
FAX 0157(31)7559
2月19日

「語り継ぐことの大切さを」 紀元節復活反対北見市民集会

二月

一日、北見市民会館にて「紀元節復活反対北見市民集会」を開催しました。今回の担当は網走教組北見支部、講師は網走教組の大先輩である弦巻先生にお願いし、「語り継ぐことの大切さを」という演題で話していただきました。会場は大盛況。弦巻先生のつながりの広さ、深さを改めて実感しました。すてきなお話の内容を一部紹介します。

一、紀元節制定、そして皇民化政策から戦後まで

明治憲法制定、そして天皇を神格化するための紀元節、教育勅語定着は日清戦争後であった。土着の神社を統合し、天皇家につながるものに変えていった。それに対して各地では強い抵抗もありました。そして大正デモクラシーを経て治安維持法の制定。この治安維持法はドイツのゲシユタポなどと並び世界三大悪法と呼ばれており、小林多喜二ら多くの人々が思想弾圧の犠牲になりました。

日中戦争が始まり大政翼賛会の成立、太平洋戦争へと突入。ミッドウェイ海戦で事実上敗戦したにもかかわらず「転戦」という表現で戦争を継続、日本兵死者の三分の二は病死だったのだそうです。終戦後の極東国際軍事裁判は戦勝国の裁判であり、原爆に対する判決はな



も裁かれず、事実上無罪放免の扱いでした。

二、皇民化政策が人々

にもたらしたものの歴史を上から見るのではなく、地域、少数民族の視点から見直すことが大切。一つ一つが「かけがえのない」人生。

「ゲインターヌさん」ウィルタはトナカイ放牧を生業とし、「アイヌよりも愚鈍で無知蒙昧」とされた少数民族。しかし素晴らしい手の技術、心をもつ。戦争、という言葉はない、政府は土人教育所で修身教育を徹底し、ソ連国境でスパイ活動をさせる。

り、原爆に對終戦時には見捨てられ、シベリア抑留。九年後に帰国、網走へ。軍人恩給を請求するも国は却下。少数民族の資料館を作りたい。と「ジャッカドフニ」建設にかかわり、その資料館で亡くなる。

提供された。思想弾圧を行



許せない！ 退職手当削減

道教委に對して 怒りの声！

一月二十九日、道教委との賃金継続・定員教育予算最終交渉で、退職金引き下げ、来年度以降の独自削減、現給保障廃止について、道教委は私たちの要求を退けるような厳しい回答を提示しました。おおまかな内容は、次の通りです。

1. 独自削減について
今後引き続き行財政改革の取り組みを進めていく。(独自削減は継続する)
2. 現給保障について
平成二五年度は現行どおり継続。平成二六年度以降は国や他府県の動向を見て話し合う。
3. 退職手当について
今年度退職者は対象外。九ヶ月ごとの経過措置だったのが一二ヶ月、一四ヶ月と延長になった。
4. 休憩時間の適正化について
休憩時間の確保に向けた対応策など、検討委員会等を設置するなどして検討していく。

この交渉の結果を受け、各支部にて時間外職場集会が開かれました。北見支部では三十日十九時から七名で実施。同じく遠軽支部も十九日より四名で実施されました。各支部からは、「ひどい」という言葉しかでない、「本当にひどい！」という共通の言葉が上がりました。「私たちに生活があります。自分の子どもも育てなければならぬ責務があります。」「ああ疲れる！」という切実な声も。網走支部は吹雪のため、遅れて二月六日十八時より五名で実施しました。「このままでは早期退職者が増えるのでは」という懸念もありました。どの支部も、怒りの声しかありませんでした。

道教組の先生方が長時間奮闘したにも関わらず、前進したとは言えない結果となりました。私たちの生活に関わる重要な交渉です。今後も怒りの声をあげ、みなさんの力を合わせて闘っていきましょう。

今年度の定期大会から、全組合員参加で行うことが確認されています。都合をいっけ参加しましょう。

網走教組定期大会